沖縄の芸能文化のデジタル・アーカイブ化の研究

張　恵琴*1

沖縄など地域文化のデジタル・アーカイブズが多く開発されはじめ、資料提示や研究利用が進み、これまでの素材の集合から資料の組織化の研究が進みだした。

この課題の解決方法の一つとして、オーラル・ヒストリーを用いて、多様な資料の組織化を進めた沖縄文化のデジタル・アーカイブを作成、試行の結果について報告する。

＜キーワード＞文化情報、デジタル・アーカイブ、オーラル・ヒストリー、教材

１．はじめに

日本各地には神話、祭り、伝統芸能、習俗等の広い意味での歴史的遺産、伝統文化等があるが、近年の生活スタイルの変化、物に対する価値観の変化、人間社会の高齢化などの原因でその地域の文化の継承が困難になっている。だから、地域における文化の保存が極めて重要である。そのデジタル・アーカイブ化の必要性も問われている。

２．地域の芸能文化のデジタル･アーカイブズの現状

内閣官房、文化庁、経済産業省、総務省などが支援したデジタル･アーカイブ推進協議会が出版した「デジタル・アーカイブ白書 2005」は 1637 館の博物館・美術館ＷＥＢサイトを対象として、デジタル・アーカイブズの現状を調査した。その調査の結果を図１から図３に示した。図書館・公文書館・大学・研究機関でも地域における文化資料が上位には入ってない。自治体・公共団体・地域推進団体には無形文化財が上位４位となっている。ところが、その詳細を調べてみたら、全体的に芸能文化に関するデジタル・アーカイブはすくなく、芸能文化関係のサイトは 76 館中９館しかなかった。その表現も静止画が主である。地域の芸能文化はその舞の動作（所作）の伝承が重要であり、その表示方法として、映像の表示が必要であり、これらの研究を進めるべきである。そこで、オーラルヒストリーを扱ったデジタル･アーカイブの開発の研究を進めた。

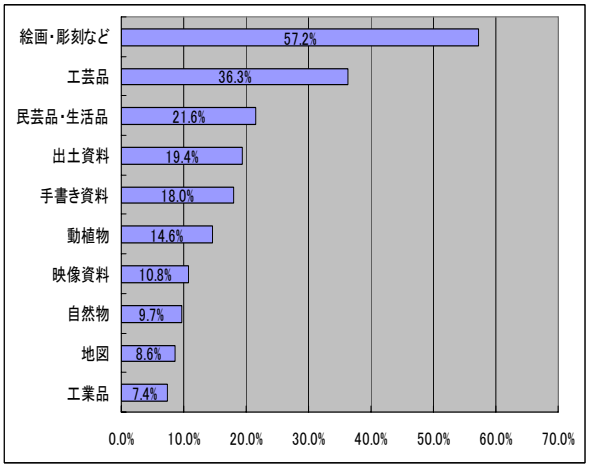

図１　博物館・美術館　デジタル・アーカイブの内容

（上位 10 カテゴリー）デジタル・アーカイブ白書 2005 より

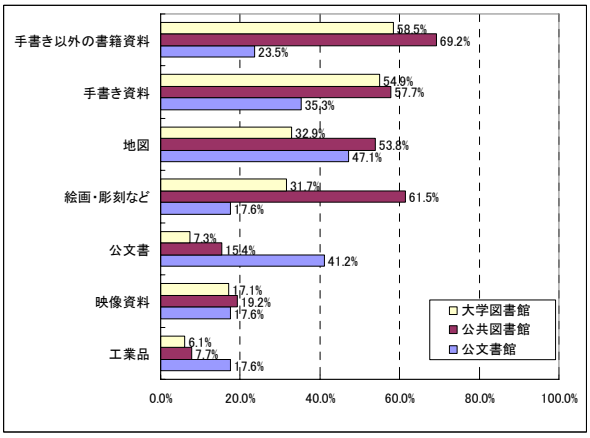

図２　図書館・公文書館・大学・研究機関デジタル・アーカイブの内容（上位カテゴリー）デジタル・アーカイブ白著 2005 より

＊1 CYOU,Keikin　岐阜女子大学

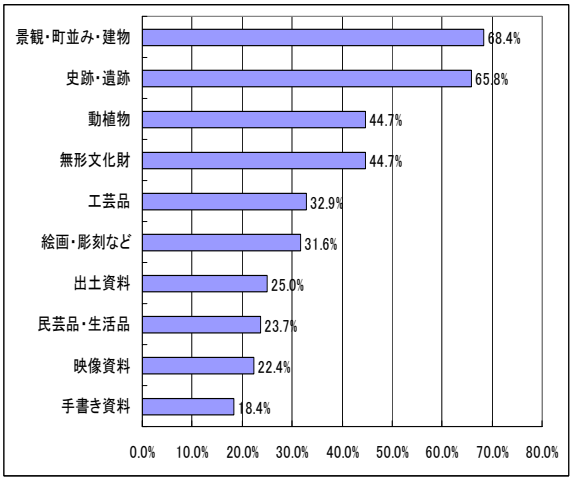

図３　.自治体・公共団体　デジタル・アーカイブの内容（上位 10 カテゴリー）デジタル・アーカイブ白著 2005 より

３. オーラルヒストリー

(1) オーラルヒストリーの定義

オーラルヒストリーは英語の Oral history を表現している。直訳すれば、「口述歴史」である。

(2) オーラルヒストリーの歴史

Thompson（2002）『記録から歴史へ―オーラルヒストリーの世界』によると、その嚆矢となるのは、中国は紀元前 3 世紀（司馬遷：人々の歴史伝承の体系的収集）、ヨーロッパは紀元前 5 世紀（ヘロドトス：証人にいろいろな角度から証言を聞く）、イスラムは 9 世紀（予言者の記憶の収集）、日本は 8 世紀（『古事記』）である。

(3) オーラルヒストリーの用途など

- 口述歴史（資料）；（口述記録に基づく）文献（記事・録音など）の作成
- インタビューにより個人や組織の記録を作成して研究に用いる
- 専門家による、万人のための口述記録を作成して後世に伝える
- 個人や組織の経験をインタビューし、記録を作成して後世に伝える

(4) オーラルヒストリーの特徴

表１　従来のオーラルヒストリーの主な特徴

（印刷メディアを用いたオーラルヒストリー）

特徴	説明
文字で伝える	口述を文字化され、記録されている。
会話式で書かれている	インタビューなので、会話式で記録されている。
保存しやすい	紙で作られているので、長く保存される。

表２　近年のオーラルヒストリーの特徴

（デジタルメディアを用いたオーラルヒストリー）

特徴	説明
映像や音声で伝える	デジタルメディアを使い、インタビューをとる。
文字で読むこともできる	文字情報を入れることでできるようになっている。
参考資料がリンクされる	参考資料をコンテンツと関連させる。
資料の組織化ができる	一連の関連した資料がオーラルヒストリーでつながる。
印刷メディア	コンテンツの印刷利用。

４. 沖縄の歴史や芸能文化

(1) 沖縄の歴史

西暦 600 年頃沖縄は琉球という名で始めて中国の歴史書に現れた。西暦 700 年頃、遣唐使の船が沖縄に漂着。西暦 1100 年頃、一代目の舜天王統（3 代）が成立、英祖王統（5 代）、察度王統（2 代）、第一尚氏王統（7 代）、第二尚氏王統（19 代）の計 36 代の王統を経てきた。そのあと、アメリカに統治され、1972 年 5 月 15 日に日本に復帰された。

沖縄の盆踊りであるエイサーは第二尚氏王統の 7 代目の尚寧王の時に、沖縄に来て、浄土

宗を広めたといわれている。

(2) 沖縄の芸能文化

沖縄の芸能には主に琉球古典音楽、組踊、盆踊り、琉球舞踊、現代沖縄音楽、芝居がある。本研究は沖縄の盆踊りについて調査・研究を行った。

①沖縄の盆踊り　エイサー

図 4　沖縄の盆踊り：エイサー

お盆のときに、沖縄各地で踊られている念仏踊りのことをエイサーと言う。沖縄のお盆は、旧暦の 7 月 13 日から 15 日までの 3 日間。さらに盆明けの 16 日にエイサー大会も行われるようになってきた。

エイサーは、念仏歌の噺子「エイサー エイサー」に由来すると言われている。エイサーの楽器は大太鼓、締め太鼓、半胴鼓（パーランクー）が用いられる。

②アンガマ

図 5　アンガマ

アンガマは念仏踊りの一つである。アンガマか、アンガマーと呼ばれている。ここではアンガマと呼ぶ。このアンガマは、あの世からの使者であるウシュマイ（お爺）とウミー（お婆）が子孫(ファーマー)と呼ばれる花子を連れて現世に現れ、石垣島の家々を訪問、その家々の仏壇の前で珍問答や踊りなどで祖先の霊を供養するという八重山独特の旧盆行事である。

５. オーラルヒストリーを用いた沖縄文化コンテンツ

(1) 沖縄に関するオーラルヒストリーを作る

元沖縄県立博物館館長　宜保榮治郎氏にインタビューし、その映像をデジタル・アーカイブ化し、沖縄文化に関するオーラル・ヒストリーを作成した。

図 6　インタビューの時の様子

聞き手（左）：岐阜女子大学後藤忠彦教授

語り手（右）：元沖縄県立博物館館長
宜保榮治郎氏

撮影日：2005/12/25

宜保榮治郎氏について

昭和 9 年　名護市字屋部に生まれる

昭和 63 年　沖縄県文化課長

平成 4 年　沖縄県立博物館長

平成 7 年　沖縄大学教授　沖縄県文化財審議委員　名護市文化協会長

著書　　『琉球舞踊入門』『エイサー』

（2）オーラルヒストリーの内容

宜保榮治郎氏が語った内容の一部

「私は，このエイサーをやってもう40年ほどになりますけれども，結局沖縄も盆踊りですね，エイサーが沸騰するぐらい昔から盛んなんですね．ですけれども，このエイサーがどういう意味を持っているかとか，あるいは目的，そういうふうなものは盆行事としてふさわしくないような解釈があるわけですね．このエイサーの目的というのは五穀豊穣のために踊られるんだ．（中略）何でも五穀豊穣，子孫繁栄と言ってしまえばすべての目的はそれに集約されるわけです．そういうことで，沖縄でもエイサーは五穀豊穣だということを言っているわけですけれども．しかし，なぜ盆という仏教の行事のときにやるのかということがあまり研究されていなかったわけですね．（中略），沖縄の文献をずうっと調べてみると，袋中上人が1603年に沖縄に来られて浄土宗を広められたと．（中略）この袋中上人が沖縄に来られて浄土宗を広められたと．そして，そのときにお経を庶民にわかりやすく沖縄の言葉に訳して教えたということが，はっきり「球陽」という本とか「琉球国由来記」という本に出ているんですね．（中略）「盂蘭盆経」という中国のお経が日本に渡ってきて，そしてそれが浄土宗のお坊さんの方で勉強なされて，袋中上人は沖縄に来られて，お盆のときにこういう芸能をやりなさいと．そしてそのときに，親の供養は大切であると，あるいは亡くなった人の供養は大切であるということを，この「仲順流り」というお経で教えられたというふうにして話しましたら，次第に近ごろは新聞の方も，エイサーは念仏踊りであると，そしてお盆の目的は供養であるというふうなことで，ようやく私が説明したことがあるわけですね．」

この話から、沖縄のエイサーは盆踊りであることがわかった。また、1603年に、袋中上人が沖縄にきて、沖縄の人々に浄土宗を教えた。こうやって、盆踊りが沖縄で踊られるようになって、現在のエイサーとなった。つまり、中国（盂蘭盆経）－－→袋中上人（浄土宗）――→沖縄（盆踊り＝＝エイサー）ということである。

このような宜保氏の話と関連のある資料を用いて、デジタル・アーカイブを構成した。

６．コンテンツを作る

出来上がったコンテンツの機能について説明する。

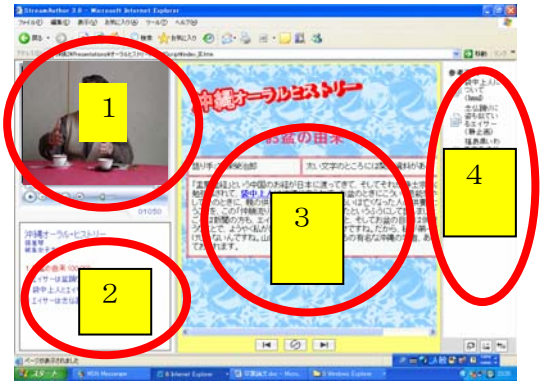

図7　コンテンツ画面

コンテンツの左上 1 は宜保榮治郎氏をインタビューした時の映像である。再生・一時停止・停止・前へ・次へ・ミュート・音量・早送りという７つの機能がついている。

コンテンツの左下 2 は映像、スライド、HTML の目次である。このコンテンツには 7 つの項目が構築されている。

コンテンツの中央 3 は HTML で構成されている。これはインタビューを文字化したものである。そこの色のついているところはハイパーリンクが張られてあり、そのキーワードについての資料が読めるようになっている。下の三つのボタンには前のページへ・同期・次のページへの機能がついている。

コンテンツの右側 4 は参考資料である。静止画・動画・HTMLなどのものが入っている。下の三つのボタンにはスライドを最大表示・動画の最大表示・動画とスライド入れ替えの機能がついている。

７．参考資料

宜保榮治郎氏のお話の中から取り出したキーワードや関連した事柄についての資料を、参考資料として静止画・動画・HTMLで作成し、コンテンツから取り出せるようにした。以下にその具体例を示す。

図8　盂蘭盆経（ＨＰ）

中国の『盂蘭盆』というお経にはこんな物語があった。目連尊者（もくれんそんじゃ）は餓鬼道に落ちて苦しむ母親を救うために、お釈迦様の教えに従って七月十五日に百味のご馳走を盆に盛り、僧たちにお経を歌えさせて母親をねんごろに供養し、無事に母親を餓鬼道から救い出した。この物語から、中国は６世紀ごろから盂蘭盆会を行い、そのあと、日本に伝わり、次第に、日本で行われるようになった。その盂蘭盆がお盆の由来だと考えられる。

図9　沖縄平敷屋青年会エイサー（動画）

この動画は2005年8月21日に、沖縄県うるま市勝連で撮った平敷屋青年会エイサーである。その一部分を今回のコンテンツにのせることにした。

図10　沖縄の歴史（ＨＰ）

沖縄の歴史を日本本島と中国の歴史と比較したホームページである。西暦300年～西暦1900年の間に起こった歴史事を記してある。

図11　エイサーの静止画

図12　宜保榮治郎氏について（ＨＰ）

図13　袋中上人について（ＨＰ）

図14　アンガマ（動画）

2005 年の 8 月 16 日に沖縄の石垣島で行われたアンガマの動画である。

８. 終わりに

地域文化に関するデジタル･アーカイブの構成について考えた時、文脈性のある構成がないことが分かった。このため、本研究ではその解決方法の一つとして、オーラルヒストリーを中心にした構成を考えた。そこで、その基礎となるオーラルヒストリーの歴史とその現状の調査をし、その特徴を検討し、これをもとに沖縄芸能文化のデジタル･アーカイブの研究を行った。そして、つぎの三つの成果を得られた。①オーラルヒストリーを用いて、歴史的な背景等をデジタル・アーカイブ化することができた。②歴史的価値のある動画・静止画を撮影し、貴重な資料を後世に残す方法を開発した。③地域間のデジタル･アーカイブ化の今後の開発研究の参考資料を作成した。

今回の研究を通じて、私はこのような勉強ができたと思っている。①沖縄（異文化）についてもっと知ることができた。②ホームページや動画の作成・製作などにもっと面白さを感じ、もっと上手に作れるようになった。③卒業論文はいろんな調査をし、たくさんの資料を集めた上で書けるものだということがわかった。

今回の研究は沖縄の文化------盆踊りを素材にし、コンテンツの作成に取り組んだが、沖縄にはエイサー、アンガマの盆踊りのほかに、もっと面白くて、代々伝わってきた無形文化財は沖縄各地に残っている。本当は、そういった無形文化財をすべて調査し、記録するのはとても意義のある、後世に貢献することであると思うが、時間、距離、金銭面の問題で、調査、記録することを余儀なくエイサー、アンガマの調査、記録までとなった。

今回の研究にあたって、指導していただいた後藤忠彦教授、インタビューに応じて、沖縄の文化に関するオーラルヒストリーを語っていただいた宜保榮治郎氏、取材に協力をしていただいた仲本實氏、新垣英司氏に心から感謝の意を表します。

参考文献

1）デジタルアーカイブ推進協議会，デジタルアーカイブ白書 2005，東京，笠羽　晴夫，2005，ｐ.25-27

2）政策研究大学院大学，c.o.e.オーラル･政策研究プロジェクト木田宏（上・下巻），東京，政策研究大学院大学，2003

3）宜保榮治郎，エイサー・沖縄の盆踊り，沖縄，那覇出版社，1997，287p

4）御厨貴,オーラル･ヒストリー　現代史のための口述記録，東京，中央公論新社，2002，207ｐ

5）本田安次，本田安次著作集　第十九巻　日本の伝統芸能　沖縄の芸能　伊豆の島々の芸能，東京，錦正社，1999